
思いのかけら達

日向葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思いのかけら達

【Nコード】

N5937D

【作者名】

日向葵

【あらすじ】

ちよっとしたエピソードを集めた短編集です。

一方通行

返信メールに

皆に会えなくなるから
さびしくなるよ

なんてずるいじゃない。

私だけなんて言葉
期待してなんかいないけど
悔しくて
泣き笑い。

本当は気づいているんだ
彼にとって自分がどんな位置にいるのか
分かってるんだ
自分の恋の矢印が一方通行なんだって

それでもまだあきらめきれない

しつこくてもいい
嫌われてもいい
今はまだ言葉にする勇氣はないけれど

あなたを好きでいてもいいですか

茜色の街で

片手に花束を持ったまま、電車の扉近くに立ち、沈み行く夕日を眺めた。

河岸に開けた土地には、最近建ったがかりの高層マンションが建ち並び、太陽の光を反射して赤く煌く。

土手を犬と散歩する人も

キャッチボールをする少年も

買い物かごを下げたお母さんも

影が細く長くたなびいて大きく見える。

今日の日よさよなら

終わり行く一日にお礼を言って、少しだけ目を閉じ
おでこをこつんと扉にあずけた。

この街にあなたははいないけれど、
元気にしていますか？

今はもう口にしない名前を思い出し
音にならない声でそつと呟く。

“この瞬間が一番きれいなんだよ”

茜色のこの街と一緒に眺めながら、そう教えてくれたのを

つい昨日のことのように思い出す。

太陽が別れを告げ、暗い夜が始まるこの瞬間があなたは大好きで、
良く二人で高台に行って暮れ行く様を眺めていた。

“こんなところで、ごめんね”

つていつも済まなそうに謝っていたけれど

ねえ？あなたは知ってた？

私も、静かに流れるその時間が、大好きだったのを。

ホームに降り立つと、夕暮れの風が少し肌寒く感じられる。

帰り道を急ぐ人々の雑踏にまぎれ、駅の側にある踏み切りまでたどり着くと

そつと持ってきた花束を立てかけしゃがみこんだ。

自分の影が踏み切りの影と重なり合つて、

ピンク色の地面に淡く映し出される。

両手を合わせて少し祈ってから立ち上がり、

スカートについた砂を払ってから

濃い紫色に染まり始めた空を眺めた。

あなたが愛したこの街で、

私は今も元気に暮らしています。

あの日からいっぱい泣いて、いろんなことが変わったけれど
夕暮れの茜色の光に包まれている間は
あなたを側に感じる事が出来たから

だから、

この街を離れても頑張れると思うのです。

ゆっくりと歩き出すと、影が自分に合わせて動き出す。
太陽は最後の力をふりしぼり、わずかな光を空に残して
姿をくらませた。

“ 頑張れよ ”

そういつて笑う懐かしい声が聞こえた気がした。

茜色の街で（後書き）

マジックアワーから思いついた小話です（笑）
何か思っていただけるところがあれば幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5937d/>

思いのかけら達

2010年10月28日03時10分発行